

神奈川県立小田原支援学校 学校運営協議会 開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催しました。

会議名称	令和7年度 小田原支援学校 第1回 学校運営協議会
開催日時	令和7年5月21日(水) 10:00~12:00
開催場所	小田原支援学校 応接室
出席者	運営協議会委員(本校校長含む)8名※欠席者なし、リモート参加1名 事務局教職員13名
会議資料	第1回学校運営協議会次第、学校運営協議会運営計画、小田原支援学校グランドデザイン、学校教育計画、令和6年度学校評価報告、令和7年度学校評価報告書(目標設定)、各部門・校舎・各グループ取組の重点、人的交流報告
議事録	<p>1 会長挨拶 新しい校長先生からの話を基に日々の教育活動、学びの様子を理解するとともに、皆様のご意見をいただきたい。</p> <p>2 校長挨拶</p> <p>3 学校運営協議会委員委嘱並びに自己紹介</p> <p>4 事務局自己紹介</p> <p>5 令和7年度学校運営協議会運営計画について ・構成メンバー・組織体制・実施日程(全4回)※次回は8月25日</p> <p>6 学校評価部会 ① 学校教育計画(令和6年度~令和9年度)4年間の基本方針として抑えていく。 ② グラウンドデザイン「一人ひとりが輝く学びの場」 ・子どもたちが安全に通える学校、保護者が安心して送り出せる学校、職員にとって働きがいのある職場、この3つを通して「一人ひとりが輝く学びの場」を目指していく。 ③ 令和7年学校評価報告書(目標設定)について 適切な教育課程の編成や1人1台端末や電子黒板等を利活用した授業づくり、児童・生徒の実態や本人の思い・願いを踏まえた個別教育計画の作成、「適切で丁寧な関わりについてのスタンダード」の作成、キャリア教育全体計画に基づいた指導・センター的機能の発揮、地域と連携した教育活動の充実、組織的な危機管理体制の確立と防災教育の充実、働き方改革の推進等を目標に掲げ取り組んでいく。 ④ 各部門・学部・校舎 各グループより 取り組みの目玉について ⑤ 人的交流について ⑥ 学校および児童生徒の活動の様子～学校ホームページより～ <意見交換・感想等></p> <p>委員:電子黒板はどういった物か? 学校:アナログとデジタルが一体となったイメージ。指で動かすとページをめくったり、ペンを選んで書き込んだりすることができる。資料を映して電子黒板に直接書き込むこともできる。タブレットで個別に取り組んでいた内容を、全体で共有しやすくなる。本校では20台配備。高さが調整できるので、車椅子利用の児童生徒も手が届くようにできる。</p> <p>委員:地域もガラッと変わっている。以前は人が集まり交流があったが、現在は記念品を渡すのみ。人が集まらない中、どうやって地域と繋がれるか。話しかけるなど、少しずつ繋がるための取っ掛かりを作ることが必要である。</p> <p>委員:コロナ後、外に出ていく動きの中で、どのような変化があるか? 学校:遠くに出かけることで、現地の事前学習など学習内容の広がりがみられている。</p> <p>委員:自校で完結せず、消防等と連携をとっていくことは大事なことである。事業所から作品を地域福祉博に出展させていたいた。</p> <p>委員:地域の学校で何が支援できるか悩んでいる。環境面、教員不足、支援・連携が追いついていないと感じる。支援の充実度には差がある。普及について、足柄小の事例を参考にしたい。協力しながら、子どもたちに社会性が身につくようにしていくべき。</p> <p>7 部会開催</p> <p>◆切れ目ない支援部会</p> <p>○協議内容 今年度の活動について 情報交換 課題の抽出等</p> <p>① 支援シートが活用されていないことについて ・支援シートが見られていないことや、引継ぎがうまく行っていないことへの課題がある。 ・市町や県によって様式が違う。共通のものがあるとよいのではないか。</p> <p>② 多職種の連携について ・専門職の連携では、福祉関係、学校、幼稚園保育園等多職種の連携ができるとよい。</p> <p>③ 県西には相談事業所が少ないことについて ・県西はセルフプラン率が高いが、事業所を増やすことは難しい。 ・セルフプランの保護者への支援や実態に応じて優先的に相談担当をつけるなど工夫も必要か。 ・相談事業所について、保護者へのアナウンスのチャンスはどのようにになっているか、情報共有、意見交換していく。</p>

◆防災部会

○協議内容

①スクールバス運行時の災害対応について

- ・災害発生時におけるスクールバスの退避場所の確保が課題である。地域の事業所の協力を得られないか検討を進める。
- ・副会長に、バス運行ルートをもとに地域の事業所に相談していただく。

②防災倉庫の備蓄品の活用状況

- ・小田原支援学校ではトイレ、発電機、炊き出しセットなど、多くの物品が未使用のまま。今年度は「トイレ」をテーマに取り組む予定。

③地域との連携強化

- ・小田原支援学校の避難訓練に地域住民の見学を促進したいと、委員よりご希望をいただいた。委員が地域の方々に声かけを行う

予定。行政は「垂直避難」を推奨しているが、住民にはイメージしづらい。実際の垂直避難の様子を見学することは有意義であるとご

意見をいただいた。

- ・委員より、当該地域は水害リスクのある地形であると情報をいただいた。ご意見をいただきながら水害リスクに備えた対応を工夫し

ていく。

8、事務連絡 次回8月25日（月）